「武装移民」から「大規模農業移民」へ――

初期満洲移民の重要な転換点を伝える
貴重資料、ついに復刻！

十五年戦争極秘資料集 補巻57

満洲武装移民関係資料

全3冊

編・解説　森　武麿

1935年頃の開拓団の様子（千振開拓団山形班）。日本刀による武装と、開拓地を囲む土壁が確認できる（満蒙開拓平和記念館提供）。

戦後八〇年の今、十五年戦争を「日本の生命線」満洲から考える！

五族協和・模範的開拓地建設という「理想」と、現地住民との対立・過酷な気候という現実。満洲移民は在郷軍人による武装移民から試験的なものとしてはじまったが、多くの離脱者、死亡者を出すこととなった――。

試験移民期（一九三二～三五年）の武装移民がおかれた苦境に寄り添い、現状を鋭く批判した永田稠の収集による「満洲移民参考資料」から武装移民に関する資料や、以降の大規模農業移民への重要な転換点となった「移民会議」の資料を整序し、「屯懇移住地視察報告」などの翻刻、森武麿による解説を附して刊行する。

下は理想とされた満洲移民居住区の鳥観図（内座祥三他「満洲の農業移民に対する居住地計画の一試案」『建築学会大会論文』一九三三年四月より、永田稠編「満洲移民参考資料」第六巻所収）。

不二出版

◉刊行にあたって

森　武麿

『十五年戦争極秘資料集補巻57　満洲武装移民関係資料』全3冊は日本力行会の所蔵する永田稠編「満洲移民参考資料」第一～一〇巻より、武装移民関係に焦点を絞り選択したものである。本資料集の原資料は関東軍移民部嘱託となった日本力行会の会長・永田稠がその職務の過程で収集したものである。関東軍や移民部作成の資料、関東軍に提出した永田稠の自筆原稿や、ほかにも時々の会議での感想を自筆のノートとしてメモしたものが含まれており、満洲武装移民に関する貴重な証言となっている。それらの資料を永田自身が日本に持ち帰り、日本力行会で現在まで保存されていたものである。

すでに不二出版で『満州移民関係資料集成』として、一九九〇年から二〇〇〇年にかけて第Ⅰ期四〇巻、第Ⅱ期二三巻の資料集が刊行されている。とくに第Ⅰ期では、一九三六年以降の「満洲一〇〇万戸移民」ともいわれる本格的移民期の資料を中心に集成されている。

それに対して本資料集では、満洲事変から一〇〇万戸移民に至る過渡期、すなわち一九三二年から一九三五年の「武装移民」ともいわれる試験移民期の資料を中心にして編集した。それによって、これまで不明であった満洲事変を転機としたブラジル移民から満洲移民への転換の過程、そして一九三四年の土龍山事件を転機に一〇〇万戸移民が生まれてくる過程がより鮮明に理解できるであろう。

本資料集では武装移民期の関東軍移民会議をめぐる諸資料を収録する。一九三二年にはじまる武装移民は中国人の激しい抵抗運動に遭遇する。その最大の事件は一九三四年三月の土龍山事件であった。それを契機にした本格的な農業移民計画策定のための会議が行われる。それが一九三四年一一月から一二月にかけての関東軍移民会議である。当時から満洲移民大会議といわれるほど、満洲移民にとって注目すべき重要な会議であった。その結果、二〇年間で一〇〇万戸という無謀ともいえる大量の日本人入植計画が決定されていく。

第1冊と第2冊は満洲移民大会議での配布資料である。「移民資料」と付された会議の参考資料については、『満州移民関係資料集成』においても、後日満鉄経済調査会によってまとめられた報告書「満洲農業移民方策」を底本として収録されているが、今回の底本は実際に会議で配布されたものである。他の移住地との比較、拓務省の入植計画・状況報告など、「満洲農業移民方策」には掲載されていなかった資料も収録しており、満洲移民の重大な転換点を理解するために必須といえよう。武装移民期の移民がおかれた経済的社会的概況、満洲国現地住民の生活状況を理解するものとしても重要な資料であり、活用が望まれる。

本資料集で最も注目されるのは、ブラジル移民経験者永田稠と関東軍東宮鉄男の対立である。これは第3冊に収録の「屯懇移住地視察報告」（永田稠）と「参謀本部第二部発表　屯懇移住地視察報告ノ誤レル点」（東宮鉄男）である。ブラジル移民と満洲移民の違いが鮮明となる。明治以来の海外移民と満洲移民の差異といってもよいであろう。さらに第3冊には満洲の中国人の土地収用の興味深い資料（永田稠メモ）も収録した。関東軍による土地収用の実態がわかる貴重な資料である。第3冊は武装移民の問題点を白日のもとに晒す貴重な資料であるといえよう。

現在のロシア・ウクライナ戦争、ガザの戦争も移民問題が絡み、アメリカ、ヨーロッパでも移民排斥が顕著になっている。世界中で移民にどう対処するかが大きな課題となっている。日本でも、これからますます深刻化するであろう移民問題を考えるためにも、満洲武装移民を対象とした本資料集が役立つことを願ってやまない。

もり・たけまろ（一橋大学名誉教授）

第二次千振隊全景写真。長野県職員甲田音十が1939年の「満支視察旅行」に参加した際に撮影（満蒙開拓平和記念館提供）。

本資料集の特徴

◎満洲移民のなかでも、初期の試験移民期（一九三二～三五年）とされる時期の武装移民の状況や、関東軍の思惑を伝える資料を、永田稠編「満洲移民参考資料」から抜粋して収録！

◎第1・2冊には、のちの大規模農業移民への重要な転換点となった「移民会議」（一九三四年一一～一二月）、また満鉄経済調査会作成の会議資料を収め、当時の満洲移民や現地住民がどのような生活を送っていたのかを一望する！

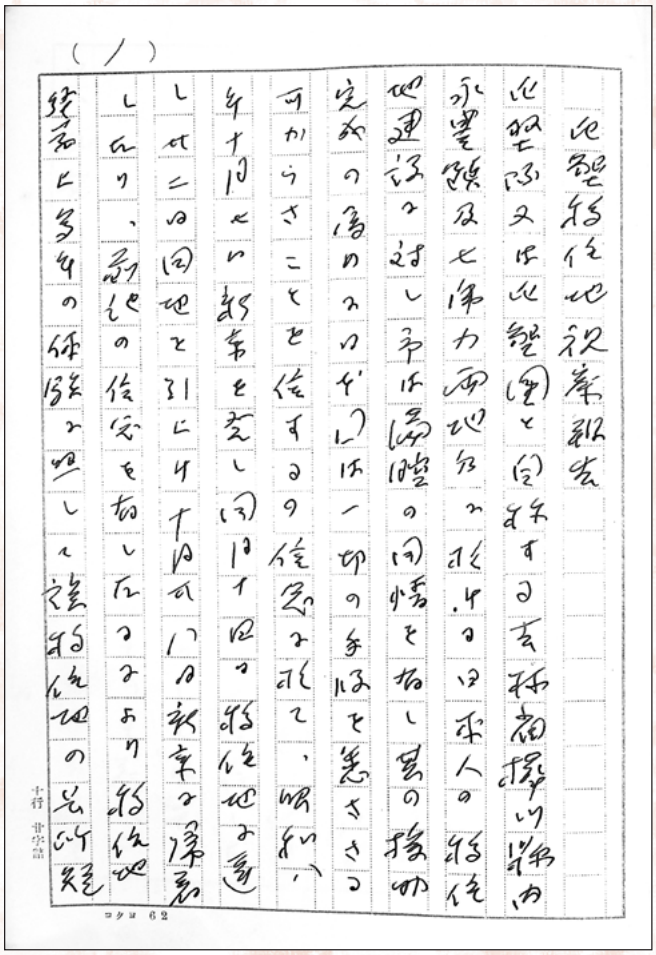
◎第3冊には、永田稠と東宮鉄男の激論を中心に、土地収用の過程について、第一次・第二次移民の苦境の調査、今後の移民政策を検討した資料を収録！

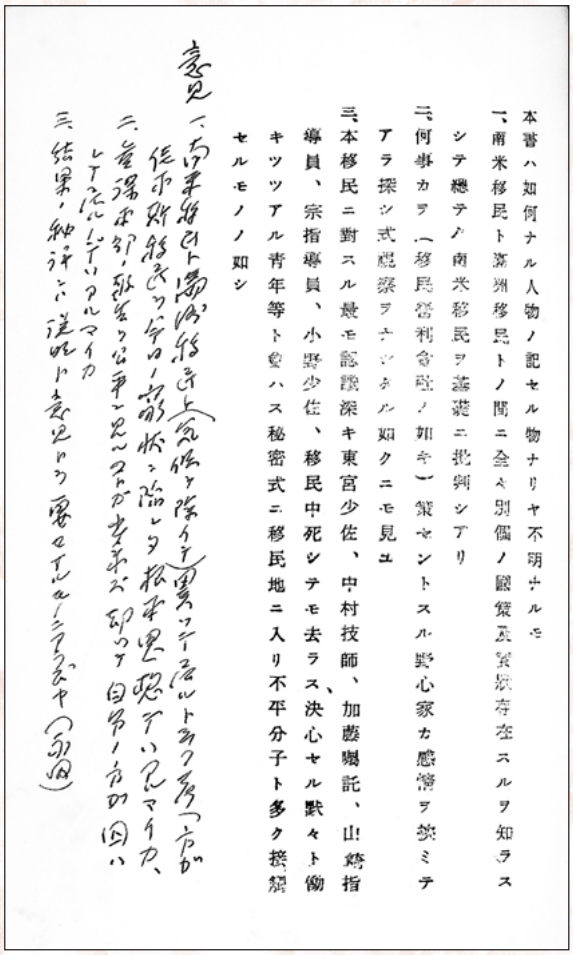
◎手書き資料（「屯墾移住地視察報告」など）の翻刻、森武麿による解説を第3冊に附す！

永田　稠

（ながた・しげし　1881～1973年）

日本力行会第２代会長、信濃海外協会幹事。1920年代よりブラジルでの日本人移住地建設に奔走。その経験を買われて関東軍嘱託となり、その職務のなかで収集・作成した資料を「満洲移民参考資料」第１～10巻として残した。「屯墾移住地視察報告」のように、関東軍や拓務省の方針とも対立、「移民会議」後は独自の移住地建設に向かう。





右：永田稠「屯墾移住地視察報告」（資料43、第3冊に翻刻とともに収録）
左：東宮鉄男「参謀本部第二部発表　屯墾移住地視察報告ノ誤マレル点」（一九三四年一月二七日、資料44、第3冊収録）

永田稠が現地視察を元に武装移民がおかれた窮状を訴え、その改善案を具体的に提案した報告書。東宮鉄男はこれを営利的な野心家によるものだとして激しく批判、それに対する永田による再反論が書き込まれている。

◉推薦します

満洲移民史の空白に光差す待望の新史料

細谷　亨

従来、満洲移民政策の形成・遂行をめぐっては、関東軍による対ソ防衛など軍事的要請と、拓務省および内原グループ（加藤完治など農本主義者）による農村過剰人口対策という二つの要因に基づくものと理解されてきた。近年では、日中戦争勃発に伴う総力戦遂行と満洲における食糧増産要員としての人的資源の適正配置といった変化の局面、試験移民期（一九三二―三五年）における梅谷光貞や永田稠など民間のブラジル移民推進者が果たした役割にも光があてられるなど、満洲移民政策に関する従来の通説を修正し、その特質をより深く掘り下げる意欲的な研究成果が発表されている。

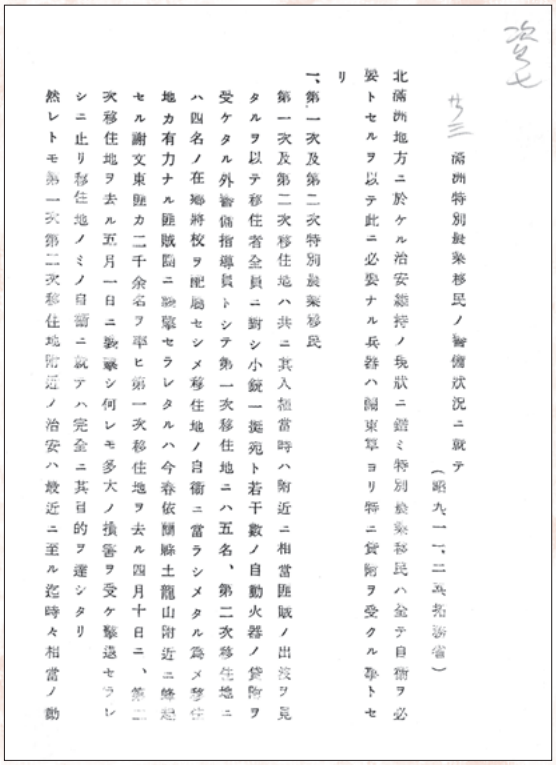
ただしその一方で、試験移民期から本格的移民期（一九三七―四一年）への移行過程や、現地での移民用地取得の具体的内実など未だ十分に明らかにされていない点も残されている。その背景には、当時政策に関与した拓務省や陸軍の公文書の多くが失われたという資料的制約が存在していた。

そうした研究史段階にあって、このたび永田稠編「満洲移民参考資料」が『満洲武装移民関係資料』全3冊として刊行されることは極めて大きな意義をもっている。本資料集に収められた文書は、試験移民期に関東軍移民部嘱託として満洲移民政策に関わっていた日本力行会会長・永田稠が集めたものであり、当該期の関東軍による移民実施要綱や各種計画案をはじめ、精神主義的な武装移民の杜撰さを批判する永田自身の手による「屯墾移住地視察報告」が含まれた貴重なものになっている。関東軍の東宮鉄男による反論も収録されており、試験移民期の移民政策をめぐる動揺や亀裂が浮かび上がってくるだろう。

また「農地買収経過報告」など第一〇師団を中心とした、現地での移民用地取得のプロセスを知り得る貴重な一次資料が含まれている点も特徴である。試験移民期における移民用地取得に関しては、数少ない拓務省側の記録である今吉敏雄文書（国文学研究資料館所蔵）からもある程度窺い知ることができるが、そこですべてが明らかになっているわけではない。本資料集と合わせて読み解くことで、中国人地主・農民からの土地収奪や現地社会との接触の位相がよりクリアになってくるのではないかと思われる。

本資料集の刊行を機に、昭和戦前・戦時下の国策として東アジアに大きな影響を与えた満洲移民への関心がさらに高まり、研究の活性化につながることを期待している。なお、永田や梅谷など満洲移民政策におけるブラジル移民推進者の役割については、本資料集の編者で解説を書かれている森武麿氏の近著（『満洲移民とブラジル移民』不二出版、二〇二五年）で仔細に検討されているので合わせて参照されたい。

ほそや　とおる（立命館大学経済学部教授）



満洲特別農業移民ノ警備状況ニ就テ
（昭九一一、二五、拓務省）

北満洲地方ニ於ケル治安維持ノ現狀ニ鑑ミ特別農業移民ハ全テ自衛ヲ必要トセルヲ以テ此ニ必要ナル兵器ハ關東軍ヨリ特ニ貸附ヲ受クル事トセリ

一、第一次及第二次特別農業移民

第一次及第二次移住地ハ共ニ其入植當時ハ附近ニ相當匪賊ノ出沒ヲ見タルヲ以テ移住者全員ニ對シ小銃一挺宛ト若干數ノ自動火器ノ貸附ヲ受ケタル外警備指導員トシテ第一次移住地ニハ五名、第二次移住地ニハ四名ノ在鄉將校ヲ配屬セシメ移住地ノ自衛ニ當ラシメタル爲メ移住地カ有力ナル匪賊團ニ襲撃セラレタルハ今春依蘭縣土龍山附近ニ蜂起セル謝文東匪カ二千余名ヲ率ヒ第一次移住地ヲ去ル四月十日ニ、第二次移住地ヲ去ル五月一日ニ襲撃シ何レモ多大ノ損害ヲ受ケ驅逐セラレシニ止リ移住地ノミノ自衛ニ就テハ完全ニ其目的ヲ達シタリ

然レトモ第一次第二次移住地附近ノ治安ハ最近ニ至ル迄時々相當ノ動

滿洲ノ在來農法

滿洲ノ在來農法ハ場所ニヨリ多少異ナルモノアリト雖兎來現在滿洲農民ハ概ネ開墾山東京奉方面ノ流民ニシテ彼等ハ傳統的技術ニ依存シ郷土ニ於ケル農法ヲ滿洲ノ風土卽チ農業ニ及ボス所ノ自然的、經濟的及政治的諸條件ニヨリ適合適用シ來リタル結果全滿ヲ通シテ一貫セル滿洲獨特ノ農法ノ存スルコトヲ發見シ得ラルルナリ、卽チ彼等ハ作物ノ選定ヲ誤マラス、輪作ヲ巧妙ニ交替シテ殆ト無肥料ノ儘ヨク地力ノ保持ニ努メ、農具ハ總テ農業ノ原理ニ符合セルモノヲ考案作製シテ使用シ、耕耘適時ヲ保チ、ニ番草ニ當ル方法ヲ以テシ、而モ廣大ナル耕地ヲ家族ノ有機的協働ニヨリ巧ク耕作スル等シテ見角何等技術ヲ來スコトナク土壌衰廢シ居ルハ一ニ其ノ農法ノ惡シキニヨルモノト云フヘシ、故ニ滿洲ノ在來農法ハ多少合理的又ハ科學的ニ改善スヘキ餘地ハアルトシテモ、永年後幾カ作農實驗シテ得タル結論ナレハ決シテ輕視スヘカラサルモノトス。今其ノ農法ノ一般ヲ略述スレハ左ノ如シ

（昭和九年二月滿鐵經調、齊齊哈爾ー甘南沿線農業調査報告ニヨル）

甘南縣及龍江縣ニ於ケル農家生計費ノ一例

種別	調査農家其ノ一	同　其ノ二	同　其ノ三
地名	甘南縣	甘南縣	龍江縣
耕作面積	自作　二〇晌	自作　二〇晌	自作　三〇晌
	外小作地六〇晌		外小作地四五晌

料27、第２冊収録）　左：「農家ノ生計」（資料30、第２冊収録）
れた満鉄経済調査会作成の資料。右資料では、満洲の農民が現地風土にあった農
の評価がなされている一方、左資料では地主支配や治安の悪さに起因する生活
日本の支配・指導の正当化の根拠とされたことがうかがえる。

拓務省「満洲特別農業移民ノ警備状況ニ就テ」
（1934年11月25日、資料16、第１冊収録）
「移住者全員ニ小銃一挺宛ト若干数ノ自動火器ノ貸付」
と、初期の満洲移民が武装移民であったことが伝わってくる。

◉推薦します

移植民団体「日本力行会」の満洲移民事業

名村　優子

『満洲武装移民関係資料』全3冊は、日本力行会の第二代会長である永田稠が一九三三年の満蒙視察を契機として作成・収集した「満洲移民参考資料」第一～一〇巻の一部を抜粋したものである。

資料を作成した永田稠は一八八一年長野県に生まれた。日露戦争に従軍し北海道開拓に従事した後、牧師・島貫兵太夫の設立した移植民団体「日本力行会」に入会し、会の斡旋により一九〇八年に渡米した。初代会長島貫の死去に際し先代から二代目会長として指名され、一九一四年に帰国してからは入国困難になった北米に代わってブラジルに活路を見い出した。

力行会では渡航を希望する青年男女に移植民教育を授け、ブラジルをはじめとする中南米やアジア地域に送り出した。会員の送出に留まらず移住地建設事業に深く関わり、信濃海外協会がサンパウロ州にアリアンサ移住地を開設する際には、永田が現地で用地買収を担った。この移住地買収交渉時に長野県知事として資金を融通したのが、後に関東軍移民部長として永田とともに満洲移民送出事業に携わった梅谷光貞であった。

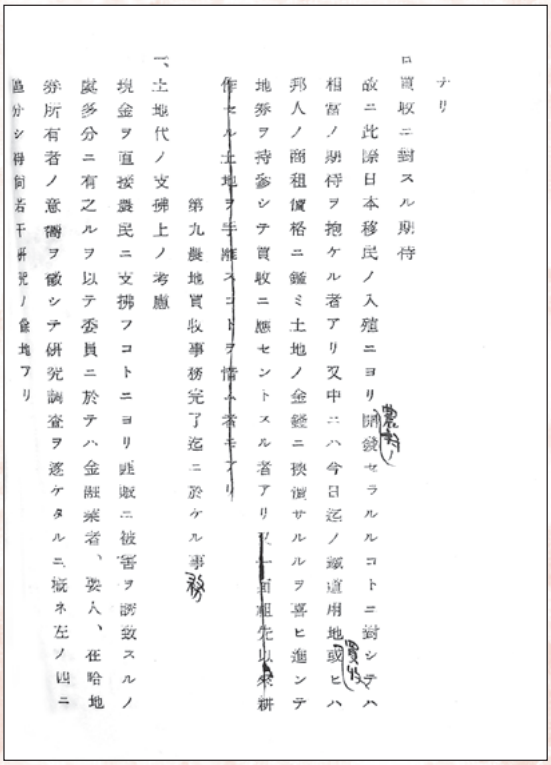
このように力行会は中南米に多くの会員を送出する一方で、一九三〇年朝鮮咸鏡北道に拓殖訓練所を開設するなど、満洲事変以前から日本の勢力圏内にも会員を送り出していた。満洲事変以降、一九三三年に関東軍嘱託として満蒙を視察した永田は「屯墾移住地視察報告」を発表したほか、力行会の事業として一九三四年新京に満洲力行農園、一九三七年新京力行村を開設した。戦中期には南方への移住を称揚する出版・講演活動を行い、さらに戦後は再び中南米への海外移住を推進し会員を送出した。

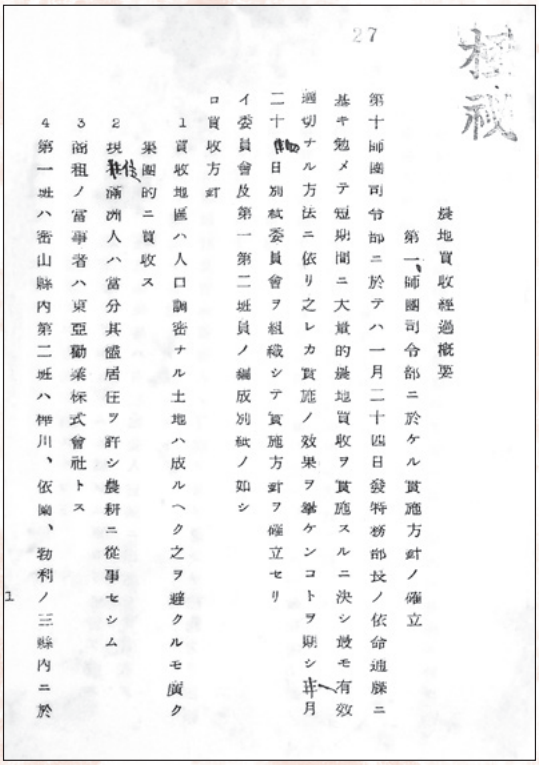
つまり力行会は、近代以降の日本移植民史と歩調を合わせるように世界各地へ会員を送出してきた。会長の永田は北海道、米国での開拓・移民生活を経験し、南米、満洲に事業者として足を運んだ実践的な移植民指導者といえる。

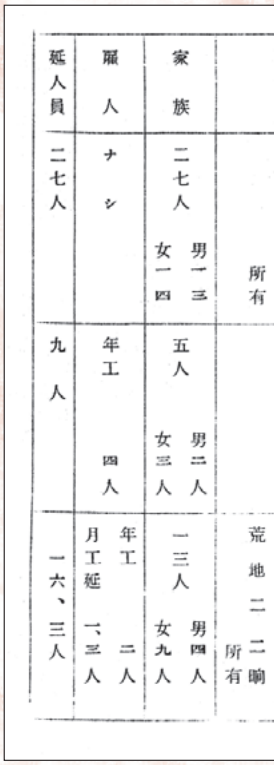
永田は自身の経験を踏まえて満洲移民の問題点を厳しく指摘する一方、満洲への移民送出自体には異を唱えなかった。一九三五年以降、本資料集にみられた国の移民事業への批判は曖昧になり、力行会の活動は軍の進出と軌を一にした勢力圏への移動に転化していく。日露戦争への従軍が海外経験の原点にあった永田は、軍組織に根本的な疑義を突きつけることができなかったのかもしれない。

軍事力を背景にした入植活動が決して過去の悪行ではなく、今もなお先住者の生活を破壊している現代世界において、国が軍事的勢力圏へ国民を誘導した満洲移民の歴史は大きな重みをもつ。満洲移民政策への批判的提案とその限界を示したこの資料集が、現在の問題の考える契機になることを願う。

なむら　ゆうこ（日本力行会力行海外移住史料室担当）







「農地買収経過概要」（資料48、第３冊収録）
土地買収の方針、各班の調査・工作の報告などが記載されている。日本の買収に対し、現地住民も期待しているとの認識が示されている（左）。このほか第３冊には、永田稠が収集していたことで残された土地収用過程の資料を多数収録した。

右：「満洲ノ在来農法」（資
「移民会議」の際に配布され
業を営んでいることへ一定
の厳しさが記されており、

◉収録内容一覧

資料番号	資料名	資料作成者	発行年月日
第1冊			
1	満洲移民ニ関スル会議開会ノ際ニ於ケル参謀長ノ挨拶	関東軍特務部	一九三四年一一月二六日
2	満洲農業移民ニ関スル諮問事項	関東軍特務部	一九三四年一一月
3	満洲農業移民根本方策案提出理由（案）	関東軍特務部	一九三四年一一月七日
4	各移住地ニ於ケル入植準備概況	第三委員会	一九三四年一一月二四日
5	移住者ニ対スル補助金及低利資金ニ関スル調	関東軍特務部	一九三四年九月四日
6	満洲農業移民ニ関スル資料		一九三四年一一月
7	移民資料一　満洲農業統計	満鉄経済調査会	
8	移民資料二　満洲農産物名称解説一覧表	満鉄経済調査会	
9	移民資料三　農業年中行事（新京ヲ中心トスル地方）	満鉄経済調査会	
10	移民資料四　満洲特産三品相場表	満鉄経済調査会	
11	移民資料五　穀物価格資料	満鉄経済調査会	
12	移民資料六　農家ノ食料	満鉄経済調査会	
13	移民資料六其ノ二　満洲特別農業移民ニ於ケル入植準備ニ就テ	拓務省	一九三四年一一月二五日
14	移民資料七　農家ノ被服	満鉄経済調査会	
15	移民資料七其ノ二　満洲特別農業移住地ニ於ケル農村計画ニ就テ	拓務省	一九三四年一一月二六日
16	移民資料七其ノ三　満洲特別農業移民ノ警備状況ニ就テ	拓務省	一九三四年一一月二五日
17	移民資料八　建物及農具ニ関スル資料	満鉄経済調査会	
18	満洲ノ粮桟概説		
19	移民資料九　労力ニ関スル資料	満鉄経済調査会	
20	移民資料一〇　労銀ニ関スル資料	満鉄経済調査会	
21	移民資料一一　家畜飼養費	満鉄経済調査会	
22	移民資料一二　農家耕地面積	満鉄経済調査会	
23	移民資料一三　満洲ニ於ケル農耕地ノ開墾	満鉄経済調査会	
24	移民資料一四　作物別反當播種量及収穫量（茎稈ヲ含ム）一覧表	満鉄経済調査会／満洲国実業部	
25	移民資料一五　農村部落構成ニ関スル資料	満鉄経済調査会／満洲国実業部	
26	移民資料一六　各地農家経営ノ規模	満鉄経済調査会／満洲国実業部	
27	移民資料一六　満洲ノ在来農法	実業部農務司	
28	移民資料一六　農家食料資料		
29	移民資料一七　満洲農家ノ副業ノ現状	満鉄経済調査会／満洲国実業部	
第2冊			
30	移民資料一八　農家ノ生計	満鉄経済調査会	
31	移民資料一九（其ノ一）松花江流域地方ニ於ケル畑作ヲ主体トスル農業経営案（其ノ一）	満鉄経済調査会	一九三四年一一月
32	移民資料一九（其ノ二）松花江流域地方ニ於ケル畑作ヲ主体トスル農業経営案（其ノ二）	満鉄経済調査会	一九三四年一一月
33	移民資料二〇（其ノ一）景星県白庙子付近ニ於ケル畑作ヲ主体トスル農業経営案（其ノ一）	満鉄経済調査会	一九三四年一一月
34	移民資料二〇（其ノ二）景星県白庙子付近ニ於ケル畑作ヲ主体トスル農業経営案（其ノ二）	満鉄経済調査会	一九三四年一一月
35	移民資料二一　遼河流域ニ於ケル水田経営案（其ノ三）	満鉄経済調査会	一九三四年一一月
36	移民資料二二　満洲農家ノ公課（租税以外）負擔ノ現状		
第3冊			
37	日本人移民実施要綱案	関東軍司令部	一九三三年四月八日
38	第二次満洲自衛移民実施要領	特務部移民部	一九三三年六月二八日
39	第三次武装移民実施案要点	東宮少佐	一九三三年八月八日
40	第一次、第二次武装移民ノ行キ方及第三次武装移民ノ実施計画案	東宮少佐	一九三三年八月一五日
41	佳木斯移住団更正対策（案）	関東軍特務部内移民部	一九三三年一二月
42	朝鮮集団部落ノ建設	［永田稠］	
43	屯墾移住地視察報告		
44	参謀本部第二部発表　屯墾移住地視察報告ノ誤レル点	東宮少佐	一九三四年一月二七日
45	昭和九年度満洲特別移民実施要綱案	関東軍特務部	一九三四年二月三日
46	吉林省東北部移住地取得ニ関シ	［永田稠］	
47	土地関係諸問題解決（案）		一九三四年三月二〇日
48	農地買収経過概要		
49	吉林省東北部地方移住地買収ノ概要及将来ノ方針		
50	通報	関東軍特務部	一九三四年三月二四日
51	京図沿線移住適地買収計画書		
52	議題六件		
53	土地買収ニ関スル現状		
54	特別移民団安定ニ関スル件	関東軍司令部	一九三四年五月九日
55	満洲第一次及第二次特別農業移民安定策（案）	関東軍特務部	一九三四年六月八日
56	満洲移民処理ト拓務省トノ関係並ニ満洲移民事務処理ニ関スル特殊機関新設ニ対スル意見	梅谷光貞	一九三四年六月一八日
57	第一、二次特別移民安定策		一九三四年六月二七日
58	第一、二次移民団匪害対策		一九三四年六月二七日
59	小八虎力地区入植計画案		一九三四年七月一〇日
60	拓務省立案ニ依ル第三次特別移民入植計画ニ対スル所見		一九三四年七月一一日
61	第三次移民入植ニ関スル件	特務部	一九三四年七月一二日
62	満洲移民根本方策	梅谷光貞	一九三四年七月一四日
63	満洲移民実施上ノ参考要目	梅谷光貞	一九三四年七月一五日
64	移民課分掌規程（案）		
65	移民局官制（案）		
66	満洲移民百万家族（三十年間）入植計画	梅谷光貞	一九三四年七月三〇日
67	移住地取得所要資金及取得ノ現状	梅谷光貞	一九三四年七月三〇日
68	實北沿線王栄廟地区ノ概況	拓務省出張員調査	一九三四年八月一〇日
69	王栄廟地区買収ニ関スル調	拓務省出張所調	一九三四年八月一〇日
70	第三次移民入植ニ関スル件		一九三四年九月一九日
71	第三次農業移民収容地ニ関スル件		
72	第三次移民入植ニ関スル意見		
73	第三次移民ニ対スル処置案		
74	第三次特別農業移民計画変更実施試案		
75	移民部編成及其ノ業務	関東軍特務部	一九三四年一一月二〇日
76	移民事業準備委員会	関東軍特務部	一九三四年一二月七日
77	来期議会ニ提出スヘキ満洲移民関係予算種目及概算		
78	満洲農業移民概況	関東軍司令部	一九三七年六月

※第1冊、第2冊の収録は、原資料の配列順とした。
※第3冊は時系列に従って収録した。作成年月日不明の場合は原資料の配列と内容を勘案して収録した。

◉十五年戦争極秘資料集　補巻❶～㊼

❶ 毒ガス戦教育関係資料
内藤裕史 編・解説　定価 19,800円

❷ 毒ガス戦関係資料Ⅱ
吉見義明・松野誠也 編・解説　定価 19,800円

❸ 思想彙報Ⅱ
荻野富士夫 編・解説　定価 16,500円

❹ 戦時下国民栄養の現況調査報告書〔昭和18年〕
金子　俊 編・解説　定価 16,500円

❺ 第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」
野田勝久 編・解説　定価 19,800円

❻ 盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊　重松関係文書
北　博昭 編・解説　定価 9,900円

❼ 韓国併合始末 関係資料
海野福寿 編・解説　定価 10,450円

❽ 軍隊警察の対立と憲兵司令部　重松関係文書Ⅱ
北　博昭 編・解説　定価 9,900円

❾ 南方地域現地自活教本
野田勝久 編・解説　定価 9,350円

❿ 戦後の皇軍　重松憲兵少佐綴
北　博昭 編・解説　定価 9,900円

⓫ 二反長音蔵・アヘン関係資料
倉橋正直 編・解説　定価 9,350円

⓬ 東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査
金子　俊 編・解説　定価 13,200円

⓭ 関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料
永島勝介・安冨　歩 編・解題　定価 9,350円

⓮ 軍律法廷審判例集
北　博昭 編・解説　定価 9,350円

⓯ 南方方面海軍資料
野田勝久 編・解説　定価 10,450円

⓰ 陸軍に於ける花柳病
早川紀代 編・解説　定価 10,450円

⓱ 毒ガス戦教育関係資料Ⅱ
内藤裕史 編・解説　定価 9,350円

⓲ 十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告
北　博昭 編・解説　定価 9,900円

⓳ 日本占領下上海における日中要人インタビューの記録
髙綱博文 編・解説　定価 10,450円

⓴ 満洲国軍ノ現況
松野誠也 編・解説　定価 19,800円

㉑ ベンゾイリン不正輸入事件関係資料
倉橋正直 編・解説　定価 9,350円

㉒ 終戦後の法令制定・改正・廃止経過一覧
茶園義男 編・解説　定価 10,780円

㉓ 陸軍軍医学校防疫研究報告　全8冊・別冊1
常石敬一 解説　揃定価 177,100円

㉔ 山東出兵時における「第三師団特種研究記事」
福島幸宏 編・解説　定価 30,800円

㉕ 宣撫月報　全8冊・別冊1
山本武利 解説　揃定価 159,500円

㉖ 五・一五事件期憲兵司令部関係文書
北　博昭 編・解説　定価 13,200円

㉗ 関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料
松村高夫・松野誠也 編・解説　定価 22,000円

㉘ 資料集成　戦争と障害者〔第Ⅰ期〕全7冊
清水　寛 編　揃定価 154,000円

㉙ 陸軍省『調査彙報』　全5冊・別冊1
松野誠也 編・解説　揃定価 83,600円

㉚ 外邦測量沿革史　草稿　全4冊・別冊1
小林　茂 解説　揃定価 124,300円

㉛ 大同保育隊報告
藤野　豊 編・解説　定価 16,500円

㉜ 戦場心理の研究　全4冊
岡田靖雄 解説　揃定価 35,200円

㉝ 満洲事変日誌記録　全3冊
芳井研一 解説　揃定価 39,600円

㉞「合作社事件」関係資料　全2冊
「合作社事件」研究会編・解説　揃定価 44,000円

㉟ 情　報　全9冊・別冊1
三好　章 解題　揃定価 149,600円

㊱ 南満州鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊
芳井研一 解説　定価 13,200円

㊲ 陸軍経理学校五十年史　全3冊
中野　良 解説　揃定価 39,600円

㊳『研究蒐録　地図』　全3冊
小林茂・渡辺理絵 解説　揃定価 59,400円

㊴ 東京時事資料月報
芳井研一 解説　定価 13,200円

㊵ 特調班月報・通訊　全4冊
三好　章 解題　揃定価 70,400円

㊶ 大阪府特高警察関係資料 ―昭和二〇年
塚﨑昌之 解説　定価 22,000円

㊷ 憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況
北　博昭 編・解説　定価 20,900円

㊸ 内外地憲兵隊にみる検閲錬成
北　博昭 編・解説　定価 22,000円

㊹ 戦時下政治行政活動史料 1941－1945　全3冊
古川隆久 編・解説　揃定価 62,700円

㊺ 海軍軍法会議判例類集
北　博昭 編・解説　定価 20,900円

㊻ 陸軍軍法会議判例類集　全2冊
北　博昭 編・解説　揃定価 41,800円

㊼ 総力戦研究所関係資料集　全9冊・別冊1
粟屋憲太郎・中村 陵 編・解説　揃定価 168,300円

㊽ 台湾総督府第六十回帝国議会説明資料　全5冊
河原　功 解題　揃定価 104,500円

㊾ 迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料
松野 誠也 編・解説　定価 22,000円

㊿ 台湾議会設置関係書類
若林 正丈 解説　定価 27,500円

51 海軍兵学校第三七期クラス会誌『海軍生活の思い出』全1冊
沖田 恭祐 解説　定価 20,900円

52 東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵「北支関係・満洲関係」綴　全3冊
折原　裕 解説　定価 59,400円

53 陸軍軍医学校防疫研究報告 第9冊・補遺　全1冊・別冊1
常石敬一 解説　揃定価 22,000円

54 日本人捕虜関係資料
内海愛子・宇田川幸大 編・解説　定価 22,000円

55 陸軍登戸研究所関係資料
松野誠也 編・解説　定価 30,800円

56 尖閣群島測候所建設調査報告
三木　健 編・解説　定価 16,500円

57 満洲武装移民関係資料　全3冊　最新刊！
森　武麿 編・解説　揃定価 83,600円

新資料発見次第、逐次刊行予定！

不二出版　一覧の表示価格は税10%込

※詳細はHPをご覧ください。

十五年戦争極秘資料集　補巻57

満洲武装移民関係資料　全３冊

編・解説　**森　武麿**（一橋大学名誉教授）

全３冊・Ｂ５判・上製・総約1,150頁
揃定価83,600円（揃本体76,000円＋税10%）
解説（森武麿）
推薦：細谷亨（立命館大学教授）、名村優子（日本力行会）
資料提供：日本力行会
底本：永田稠編「満洲移民参考資料」第１～10巻
※手書き資料翻刻を第３冊に収録。

本復刻で使用した、永田稠編「満洲移民参考資料」第１～10巻（日本力行会所蔵）

第１冊	2025年６月刊行	定価26,400円（本体24,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-6883-1
第２冊		定価26,400円（本体24,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-6884-8
第３冊	2025年８月刊行	定価30,800円（本体28,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-6885-5

お薦め先　移民史、日本近現代史、植民地史、中国史、農業史などの研究者、大学図書館・専門図書館

関連資料

復刻版 海の外

全３回配本・全７巻・別巻１

ブラジル移民と満洲移民の意外な連続性――

大正期から昭和戦前期日本の海外移住の実態、現地社会と日本人とのかかわり、そして国内の様子を克明に記した稀有な雑誌『海の外』。「移民先進県」長野のみならず、日本における「移民」の原点を伝える幻の資料を復刻！

編集―森　武麿
体裁―Ａ４判・四面付・上製・総約２、２５０頁
揃定価―２３５、９５０円（揃本体２１４、５００円＋税10%）
別巻―『満洲移民とブラジル移民―『海の外』を対象として―附復刻版『海の外』総目次・索引』
定価４、９５０円（分売可）

編集復刻版 満洲開拓関係雑誌集成

全３回配本・全11巻・別冊１

「満洲国」で移民政策を推進した満洲拓殖公社、満洲国政府開拓総局、満洲国協和会が刊行に関わった『開拓』『開拓月報』『開拓協和』といった、一九三七年以降の「満洲開拓」の実態を浮かび上がらせるための一級資料を復刻・集成。

解題―風間秀人
体裁―Ａ５判Ｂ５判・上製・総約５、８００頁
揃定価―２４２、０００円（揃本体２２０、０００円＋税10%）
別冊―解題（風間秀人）・総目次
定価１、６５９円（分売可）

※詳しくは不二出版ホームページ（https://www.fujishuppan.co.jp）をご覧下さい。

不二出版
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 00160-2-94084

表示価格はすべて税込

2025/6